

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3140								
2. 授業担当教員	松本 岳志										
4. 授業形態	演習、講義, 実技	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	「音楽Ⅲ」では「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、実習や就職後の実践力の育成を視野に、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個々のピアノ演奏技術に応じた「子どもの歌」の課題を課す。 2. 第4回、第7回、第10回、第13回において、「子どもの歌」の弾き歌い発表を行う。その際、発表者は弾き歌いを行い、その他の学生は園児役として歌を歌うものとする。 3. コードネームによる簡易伴奏譜を作成し、提出する。 										
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 これまでに履修した音楽系科目で使用したものを継続使用する。また、必要に応じてプリント配付等で対応する。										
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 弾き歌いの発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> </table> 上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。			1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%	2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%	3 弾き歌いの発表	総合点の20%	4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%										
2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%										
3 弾き歌いの発表	総合点の20%										
4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%										
12. 受講生への メッセージ	この授業は、これまで履修してきた音楽系科目「音楽」「音楽Ⅱ」「音楽実践演習」「音楽実践演習Ⅱ」で身に付けてきた演奏技能をさらに高めること、また知識を深めることを目的としています。子ども達に音楽をすることの楽しさを味わってもらうために、また新たな音楽との出会いを豊かなものにするためには、まず保育者自身が音楽を愛好し、自ら楽しもうとする姿勢、それから高い演奏技術を獲得しておくことが必要です。これは簡単なことではありませんが、日々練習すれば必ず高めていくことができると考えています。将来、保育者になっても継続して技能を高める努力はしなければなりません、学生時代にしっかりと土台を築けるようにしてもらいたいと思います。										
13. オフィスアワー	最初の授業時間の時に通知する										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 課題曲の設定 ピアノのペダルについて	事前学習	これまで履修した音楽系科目で学んだことを振り返っておくこと。								
		事後学習	レッスン①の課題曲の練習を始める。ペダルについて理解し、使用できるよう練習する。								
第2回	子どもの歌の弾き歌いレッスン① 演奏時の緊張・不安・あがりについて	事前学習	レッスン①の課題曲を弾けるように練習をしておく。								
		事後学習	レッスン②の課題曲の練習を始める。緊張や不安のコントロールについて理解する。								
第3回	子どもの歌の弾き歌いレッスン② 子どもの声域と教材選択の観点	事前学習	レッスン②の課題曲を弾けるように練習をしておく。								
		事後学習	次回授業で発表する曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。子どもの声域と教材選択について理解を深める								
第4回	子どもの歌の弾き歌い発表① 第2・3回で取り組んだ課題曲の中から1曲選択し、ク	事前学習	保育現場での弾き歌いを想定した発表を実施するので、そのための準備をしておく。								

	ラスメートを相手に弾き歌いを行う。	事後学習	発表①の演奏及びそれまでの練習状況を振り返る。また、レッスン③の課題曲の練習を始める。
第5回	子どもの歌の弾き歌いレッスン③ 「わらべうた」について	事前学習	子どもの歌の弾き歌い③で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	レッスン④の課題曲の練習を始める。わらべうたについて理解を深める。
第6回	子どもの歌の弾き歌いレッスン④ 日本の「子どもの歌」音楽史	事前学習	子どもの歌の弾き歌い④で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	次回授業で発表する曲を選び、人前で演奏できるように準備する。日本における子どもの歌の変遷について理解を深める。
第7回	子どもの歌の弾き歌い発表② 第5・6回で取り組んだ課題曲の中から1曲選択し、クラスメートを相手に弾き歌いを行う。	事前学習	保育現場での弾き歌いを想定した発表を実施するので、そのための準備をしておく。
		事後学習	発表②の演奏及びそれまでの練習状況を振り返る。また、レッスン⑤の課題曲の練習を始める。
第8回	子どもの歌の弾き歌いレッスン⑤ 簡易伴奏譜の作成（主要三和音と属七の和音）	事前学習	子どもの歌の弾き歌い⑤で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	レッスン⑥の課題曲の練習を始める。簡易伴奏譜面を仕上げて提出する。
第9回	子どもの歌の弾き歌いレッスン⑥ 簡易伴奏譜の作成（マイナーコードを含む）	事前学習	子どもの歌の弾き歌い⑥で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	次回授業で発表する曲を選び、人前で演奏できるように準備する。簡易伴奏譜を仕上げて提出する。
第10回	子どもの歌の弾き歌い発表③ 第8・9回で取り組んだ課題曲の中から1曲選択し、クラスメートを相手に弾き歌いを行う。	事前学習	保育現場での弾き歌いを想定した発表を実施するので、そのための準備をしておく。
		事後学習	発表③の演奏及びそれまでの練習状況を振り返る。また、レッスン⑦の課題曲の練習を始める。
第11回	子どもの歌の弾き歌いレッスン⑦ 楽器の分類法と手作り楽器の教育的意義	事前学習	子どもの歌の弾き歌い⑦で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	レッスン⑧の課題曲の練習を始める。楽器の分類法と手作り楽器について理解を深める。
第12回	子どもの歌の弾き歌いレッスン⑧ 簡易楽器の奏法、旋律楽器の奏法	事前学習	子どもの歌の弾き歌い⑧で弾く曲を仕上げておく。
		事後学習	次回授業で発表する曲を選び、人前で演奏できるように準備する。簡易楽器及び旋律楽器について理解を深めておく。
第13回	子どもの歌の弾き歌い発表④ 第11・12回で取り組んだ課題曲の中から1曲選択し、クラスメートを相手に弾き歌いを行う。	事前学習	保育現場での弾き歌いを想定した発表を実施するので、そのための準備をしておく。
		事後学習	発表④の演奏及びそれまでの練習状況を振り返る。
第14回	器楽合奏の実践と指導について	事前学習	簡易楽器及び旋律楽器の双方について復習し、子どもの教えることができるようにしておく。
		事後学習	器楽合奏の指導について理解を深める。
第15回	器楽合奏の発表	事前学習	楽器の奏法及びその指導について復習するとともに、器楽合奏譜を読み返しておく。
		事後学習	本科目で学んだことについて振り返るとともに、秋期開講の「音楽実践演習Ⅲ」の履修に向けて、さらにピアノ伴奏の技能を高める。